

会社社は

人間関係をスムーズにするため存在するわけではありませぬ。あくまでも仕事をやる場所です。

会社は繁盛もすれば、つぶれることもあります。その原動力は社員ひとりひとりの力です。自分だと思わなければなりません。

会社に命令されたことだけをやるのはロボットです。自分の頭で考え、実行

(行動) できる力をつけなければ生きていけない時代になっていきます。

ひとりで出来ることは限られています。

チームとして目標を達成。(具体的目標の喪失・計画と議論の欠如)

小さな目標でも自らが切り開き、思いをどう成果につなげるかです。

会社で自分の目標を持っていく人はどれだけいるでしょう。

良くいわれる風通しは、まとまるために内部の透明性が問われているものです。

競争相手は企業や個人です。それぞれが強みを出し、彼らに勝たない限り、この先食っていけないことを肝に命じなければなりません。

人間関係で悩み苦しむ人は、自分が望むように動いてくれる人はいないものです。相手に期待するほうが非

現実的です。合わない人に囲まれているのが普通です。人

はそれぞれの性格ですから、すぐに変わらないうし、変わるにも限度があります。

ひとりひとり違うんだと認識することが大前提になります。

上場企業の経営理念に、従業員の心構えやあるべき姿を説いている会社と、社会貢献や奉仕を説く会社と、世界への視点持つ会社では

経営理念に心構えやあるべき姿の方がパホームンスが高いとの分析があります。

経営理念の浸透の結果、職務への没頭を示す職務関与や革新試行性への有意義な関連が示されるのではない

か。

従業員の意志決定や行動に経営理念が寄与している可能性があると考えられます。

企業の業績は経営者によって大きく左右されるものです。



動機善なりや

「動機善なりや、私心なかりしか」稲盛和夫氏の言葉です。

夢みたくないことを言っているうちに、夢と現実との境がなくなってしまうというのを、私は何回も経験しています。ずっと考えているうちに、現実なのか自分でも分からなくなってしまうという状況になってはじめて、「できる」と私は思うわけです。そして、まだ何もやっていないのに、もう「できる」ということを言い出すのです。そういう心理状態を、私は「見える」という表現で言っている。夢みたくないことを、ただ漠然と考えているようでは話になりません。まだ、やってもいないことまで、「やれる」という自信に変わったときにはじめて、「見える」ということになるのです。

それは、テーマをどこまで深く、どれだけ長く考えているかによります。こういう「見える」という状況まで考えつくさなければ、何ごとも絶対にもものにならないと私は思っています。

私心に克つ

金を儲けるにしろ儲ける道を清くし、卑怯な方法で儲けるならこれを敗北と見なす。高い地位を得るにしても、他人を踏み台にしたり友人を売ってまで地位を得るならば、これは勝利ではなく敗北とみるべきである。

また名声を得るにしても卑劣で卑しい方法で得たならば、いかにその名が広まったとしても勝利ではなく敗北と思う。

自分の同僚や友人が不正な手段を使って富を積み、地位を上げたとしても、また名声を海外にとどろかせたとしても、羨むに当たらないし、比べて自分は敗北者だと小さくなることもない。

物質的利益を超越し名誉、地位、得失に淡々とするのができれば子供の遊びに過ぎなくなる。本当の勝利者は自分に克つ者で、私心をなくすことが必勝の条件である。

—新渡戸稲造「自警」から

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2012年4月3日 (火) NO. 244

地域から明るい未来を作ろう